



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>



～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

令和7年度4月号
令和7年4月8日

正しく疑うことの大切さ

校長 古澤 健史

【ともだち100人できるかな】

お子様のご入学・ご進級、心よりお祝い申し上げます。校長の古澤 健史（ふるさわ たけし）です。栗原小3年目となりました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年も桜とともに始業式と入学式がスタートしました。真新しいランドセルの1年生と言えば、『1年生になったら』の曲を思い出す方も多いと思います。この曲は、1966（昭和41）年に発表されました。まど みちお さんによる作詞です。この曲の歌詞で「ともだち 100人できるかな」というフレーズが出てきます。この当時、どの学校にも1年生が100人以上入学してることが当たり前だったことが想像できます。

本校の歴史を紐解いてみると、開校時は6学年中4学年が100人以上の人数でした。それが、1985（昭和60）年を最後に、100人以上いる学年が姿を消し、今に至ります。

今でも歌い継がれるこの曲ですが、「ともだち100人」は学校の同じ学年ではないのかもしれませんが。

栗原小学校では、4月4日に全校より一足早く新6年生が、入学式の準備のために登校しました。昨年度は、在校生代表として卒業式に参列し、6年生を立派に送り出しました。新6年生が、いよいよ栗っ子のリーダーとして本格始動しました。入学してくる1年生のために一生懸命準備をしてくれました。事前準備の日に来ていない2年生から5年生の分も心を込めて教室の掃除や飾り付け、会場設営をしてくれました。また、入学式でも全力で『大きな栗の木の下で』を歌って踊り、校歌を清々しく歌いました。

ことあるごとにこの6年生が中心と

なり1年生の面倒を見てくれるでしょう。そしてその姿を見た2年生から5年生も見習ってくれるでしょう。

下級生が大事にされ、上級生が尊敬される栗原小では、「ともだち100人」は同じ学年だけではないのです。

令和7年度は、新1年生60名の入学に加え、特別支援学級「マロン学級」を含む全校児童数364名、15学級でのスタートになりました。保護者、地域の皆様に、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきながら、我々教職員は栗っ子の健やかな成長のため、伴に走っていきたくと思います。

【正しく疑う必要性】

3月31日の読売新聞に「賢く暴走人を欺く」と題して、人をだますAIについての記事が載っていました。アメリカの研究機関の研究によると、様々なことを学習するAIが、お互いにチェスのゲームで対戦する実験をした際に、ルールに反して相手と自分の位置を勝手に変えたり、試合結果のプログラムを書き換えたり相手に勝つために不正行為をしたそうです。また、AIに自らソフトウェアを開発させた際に、性能評価をごまかすズルをしていたことがわかったそうです。

膨大な知識を蓄え、滑らかな言葉を操るAIに対し、人間は「AIは常に正しい」と信じてしまうことが懸念されます。我々も知らないうちに騙されているのかもしれませんが。疑うことが必要です。

さて、短く忙しいこの時期でしたが、1冊本を読みました。池上彰さんの『正しく疑う』という子ども向けの本です。メディアリテラシーに関する1冊です。大人が読んでも「なるほど！」となる本です。親子で読んでみてはどうでしょう。